

スポーツ支援強靱化のための基盤整備事業



スポーツ庁

今般の新型コロナウイルス感染症拡大により、選手強化活動については大きな制約が生じたところである。これに対応した経験から得られた成果を踏まえつつ、スポーツ医・科学的なアプローチに基づき、コンディショニング、リモートの活用など競技特性を踏まえた多様な支援手法の研究、競技用具の研究開発等により、感染症等の様々な制約を受ける状況にあっても継続的に選手強化が行われるレジリエント(強靱)なシステムを構築する。

強化活動の継続が困難となる事態

感染症等の拡大に伴う、外出自粛期間の長期化による、パフォーマンスの低下

トップアスリートの支援を行うトレーニング施設(HPSC等)の閉鎖



ポストコロナ時代の支援手法の確立

競技特性に対応した、最適なコンディショニングを獲得するための手法の開発

新しい生活様式に基づく、高度なリモート支援、競技特性に応じた手法の開発

技術開発

我が国トップアスリートのメダル獲得の優位性を確実に向上させるため、オリンピック・パラリンピック競技大会で使用される競技用具等の開発を実施。

また、競技団体と企業、大学・研究機関等の技術・開発連携先の選択肢の拡大等を促進しながら、一体的に実施。

コンディショニング

トレーニングから長期離脱(ディトレーニング)後、競技活動再開(リトレーニング)にあたり、競技特性に応じたコンディションを取り戻すための段階的な再開プログラムの策定など、コロナ禍の経験を踏まえ、競技毎の最適なコンディショニングについて、科学的なアプローチに基づく研究や事例調査等を実施。

また、メンタルトレーニングに関する諸外国の先進事例の調査や、普及啓発を実施。

リモート機器の活用

新しい生活様式に基づく対面による接触機会の軽減を図るため、リモートによる高度な支援手法や、競技特性に応じた効果的なリモート器具の開発等の研究を実施。

これにより、地方のトレーニング施設等でも、HPSCにおけるトップアスリートと同等の支援が可能となるシステムの構築を推進。

有機的に連携

HPSCを中心として、継続的に選手強化が行える、レジリエントなシステムを構築